所になん有ける、かならずそうしてせさせ奉らんなど、申給ひてついでに、

小倉山峰の紅葉心あらば今一たびのみゆきまたなん、となん有ける、かくてかへり給ひてそうし給ひければ、いとけうあることなりとてなん、大ゐの行幸といふ事はじめ給ひける、

○按ズルニ、此文ニ據レバ、大井河ノ御幸ハ、宇多法皇ニ始レルガ如シ、

〔大和物語下〕亭子のみかど○宇多とりかひのゐんにおはしましにけり、れいのごと御あそびあり、此わたりのうかれめども、あまたまゐりてさふらふ中に、聲もおもしろく、よしあるものは侍りやとはせ給に、うかれめばらの申やう、大江のたまぶちがむすめといふものなん、めづらしうまいりて侍と申ければ、見させ給ふにさまかたちもきよげなりければ、あはれがり給ひてうへにめしあげ給、そも〳〵まことかなどとはせ給ふに、とりかひといふだいを、人々によませ給ひにけり、仰給ふやう、玉淵はいとらうありて、歌などよくよみき、このとりかひといふ題を、よくつかうまつりたらん人にしたがひて、まことの子とはおもほさんとおほせ給ひけり、うけ給はりてすなはち、

淺みどりかひある春にあひぬれば霞ならねどたちのぼりけり、とよむときに、みかどのゝしりあはれがり給て、御ぞほたれ給ふ、人々もよくゑひたるほどにて、ゑひなきいとになくす、みかど御うちきひとかさねはかせ給ふ、ありとある上達部、みこたち、四位五位これにものぬぎてとらせざらんものは、座よりたちねとのたまひければ、かたはしより上下みなかづけたれば、かづきあまりて、ふたまばかりつみてぞおきたりける、○又見大鏡、十訓抄、古今著聞集、

〔大和物語下〕亭子のみかど、川尻におはしましにけり、うかれめに、ぞろといふものありけり、めしにつかはしたりければ、參りてさふらふ、かんたちめ、殿上人、みこたちあまたさふらひ給ひければ、ぞろもにとほくさふらふ、かうはるかに、さふらふよし歌つかうまつれと、仰られければすなは